

## 特集：卒業

## 卒業生を送るにあたり

濱 健夫（筑波大学 生命環境学群生物学類長）

皆さんご卒業おめでとうございます。

生物学類は、本日ここに、平成23年度の学類卒業生80名に、学士の学位記を授与いたしました。学位記を授与された皆さんとご父兄の皆さんに、教職員を代表して、心よりお祝い申し上げます。

生物学類に入学しこの学類での勉学を糧にして、新たな希望に満ちた旅立ちをされる皆さんを祝福できることは、我々にとって大いなる喜びです。大学を卒業するという達成感と、間近に迫った新しい旅立ちへの期待感とに満ちた、「さあ、これから」という皆さんの気持ちが、私どもにも伝わってきます。

大学入学時に抱いた大学生活への期待は、この在学中にかなえることはできたでしょうか。好きな勉強を研究にのめり込むことはできたでしょうか、一生続くだろう友人ができたでしょうか、サークル活動に熱中できたでしょうか。人生で一番多感で有り、また、自分の価値観が決まる重要な年代のこの大学生活において、多くのことを経験し、学んだ事と思います。ここで学び、経験した事を、これからの生活に活かしていって欲しいと思います。

本年度の卒業生は80名ですが、そのうち65名の方が大学院などへ進学し、これからも勉強の道を進まれます。また、15名の方々が企業、教員、公務員として社会へ巣立って行かれます。大学院へ進まれる方は、大学院へ進学し勉学を更に続ける意義をもう一度考え、自分の専門に閉じこもり井の中の蛙になること無く、生命現象を俯瞰的にとらえる力を身につけて欲しいと思います。また、就職し社会に出る方は、これまでとは大きく環境が変わることになります。その組織の中で、周りから必要とされる人間となるべく、これまで学んでいなかった知識を身につけ、実力をはぐくんで欲しいと思います。

筑波大学の大学院に進学される方を除き、4月からは新しい環境のもとで研究や仕事が始まることとなります。そこでは、これまで築いてきたあなたの価値観とは異なった価値観の世界かもしれませぬ。これまで重要だと考えてきたことが否定され、精神的にも辛いことがあるかもしれませぬ。でも、その中で、悩み、苦しむことにより、皆さんの新たな進歩につながり、皆さんの新しい会館を生み出すことになるでしょう。それは、変わらない環境で時間を過ごしても、生み出すことのできない貴重なものだと思います。新たな世界を恐れること無く、若者らしく飛び込んで行って下さい。

東日本大震災以降この一年間、60年近く生きてきた私でさえも、初めての経験が続きました。この状況から復興までどのような道筋があるのか、またどの程度の期間で復興が可能となるのかについては、未知の部分は多くあります。一方、地球温暖化、生物多様性の減少、海洋酸性化等、我々人類に起因する環境の変化がじわじわと進行しつつあります。この問題の進行についても数々のシナリオが描かれていますが、こちらもどのようなシナリオとなるのかは、現在のところ分かりませぬ。我々は、意図を持ってシナリオを変えられる唯一の存在です。この20年から50年は、日本が、世界がそして地球がどのような起動を描いて変化するかについて、重要な期間となります。これは皆さんが社会で最も活躍する期間と一致しています。日本を、世界をそして地球を、好ましい軌道に乗せるため、力を尽くして下さい。

最後に、心と体の健康は、全ての活動の基本となります。健康に十分注意して下さい。皆さんの検討を祈っています。

Contributed by Takeo Hama, Received March 24, 2012.